



折り鶴を通してコミュニケーション

参加者の関心を集めた ワークショップ「フクシマの放射能被害」

IPPNW (核戦争防止国際医師会議) カザフスタン大会の報告

耳原総合病院
外科医師

平林 邦昭

このたび、8月27日〜29日、カザフスタン・アスタナ市において開催されたIPPNW世界大会に全日本民主医療機関連合会(全日本民医連)、全国保険医団体連合会(保団連) 22名からなる代表団として参加してきました。

今回ほど事前に学習会をしつかり行い臨んだIPPNWは初めての事です。高齢の参加者が多い中、同協会からは3名(内2名は研修医)が参加し、世界中の若者たちと熱く交流しました。

また代表団が担当したWS(ワークショップ)「フクシマの放射能被害」は今大会の数多くのWSのなかでも70名の参加と、最も参加者が多く大成功に終わりました。

眞鍋 穂先生(阪南医療生協診療所所長)が英語で発表、司会運営やメディア、国営放送のインタビューにも英語で対応され大活躍されました。

全体会、WS、交流会を通じ、「核兵器の非人道性」が大いに語られました。「安全保障の道具」と誤解されている核兵器が、実は安全保障どころか世界的な気候変動から飢餓、健康破壊、人類滅亡の危機へ、と導く恐怖の道具であることが科学的な検証からも明らかにされました。原発も含め「核と人類は共存できない!」とあらためて再確認させられた大会となりました。

耳原総合病院
研修医

植田 大樹

今回、IPPNWに研修医として参加させていただくという機会

IPPNWって?

IPPNW=核戦争防止国際医師会議
核戦争を医療関係者の立場から防止する活動を行うための国際組織であり、78ヶ国・25万人の医師が参加している。1985年にノーベル平和賞を受賞。

お礼

代表派遣に向けて、多くの方からカンパを頂戴いたしました。ご協力ありがとうございました。



各国の若手医師と

をいただき、とても光栄でした。1日目、基調講演の中で印象に残った言葉としては、「核兵器を使うwinnerはいない」や、「核兵器は力の象徴や技術の象徴ではなく不安定性の象徴である」といった言葉です。

2日目はいくつかに分かれての会議。医師が各国代表に対して直接発言していく、こんな会議こそがIPPNWなのかと、思われるセッションでした。参加した「セミパラチンスク(ソ連の核実験場)の核被害」では、3世代にも及び健康被害が報告されており、日本の福島のこれからを聞いているようで、心苦しくなりました。

今回の参加で最大の収穫は、つながりができたことです。世界の人々とお互いに話をする事で海外の政治への意識の高さや、戦争や核問題への意識の高さを垣間見ることができました。外国人と英語で議論できたらこんなに楽しいんじゃないでしょうか。一つ大きな目標ができました。世界的に見ても日本と核問題とのつながりの強さは類を見ませ



全日本民医連、保団連の参加メンバー

耳原総合病院
研修医

来問 愛里

ん。しかし私は、私たちは、どれほど核問題への問題意識を持っているでしょうか。私の中のどこかには福島を過去のことと捉え、考えることをやめつつあったのでは、身を引き締める機会となりました。

福島の震災避難者健診をきっかけに原発事故の影響に興味を持ち、誘われるままにIPPNW世界大会への参加を決めました。カザフスタンはどこにあるんだろうと、不安に感じながら出発しましたが、カザフスタンの人は素朴で優しく、とても素敵な国でした。3日間通じての私の学びは、自

耳原総合病院(新病院)建設記念!! 同 仁 会 ロゴマ ー ク デザイン募集!

- 応募資格 同 仁 会 職 員 お よ び 「 健 康 友 の 会 み み は ら 」 会 員
ご本人とご家族
- 応募方法 データを直接メール添付していただくか、(PDFまたはJPEG形式に限る) 申込用紙に書き込んでいただき、郵送していただいてもOKです。
- 応募メ 2014年10月末日
- 応募先 同 仁 会 「ア ー ト & 癒 し の 空 間 づ く り プロジェク ト」 事 務 局 ま で
〒590-8505 堺市堺区協和町4-465
耳原総合病院 建設事務局 (担当: 滝沢)
メールアドレス: takizawa-y@mimihara.or.jp
☎: 072-241-0501 FAX: 072-244-3577
- ★応募デザインは専門家によって加工させていただくことをご了解ください。
- ★採用作品の著作権は同 仁 会 が 持 つ こ と に な り ま す の で ご 了 解 ください。
- ★ロゴマークは看板や名刺・封筒など各種印刷物に活用させていただきます。

その他、ご質問、お問い合わせは上記の事務局までご連絡ください。(^^)

患者・利用者さまアンケート (満足度調査) ご協力をお願い

同 仁 会 で は 「困 っ た 人 の よ り ど こ ろ に な る 医 療 ・ 介 護 事 業 所」として、患者・利用者さまが安心して納得のゆくサービスが受けられるように平素から満足度向上活動をめざし、その一環として患者・利用者さまの生の声をお聞きする調査を、毎年実施させていただいております。

アンケートに寄せられたご意見やご要望をもとに、サービスの質の向上に努めたいと思いますので、趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお聞かせください。

* アンケートは、9月以降順次、各事業所でお渡しいたします。
ご協力よろしくお願ひいたします。

分が何も知らないというところ、そして知らないことに気が付いていかなかったということ。様々な人と話をしたり、プレゼンを聴く中で、自分の知らなかったことをたくさん知りました。核兵器のこと、放射能の影響、日本や世界のこと。

まだ全部ぼんやりとしています。今回のことは気づきのきっかけになりました。次の私の仕事は、学んできたことをきちんと整理して広げていくことが、と思います。カザフスタンに行って、そしてIPPNWに参加して、本当に良かったです。このような貴重な経験をさせていただいたことに、心から感謝いたします。ありがとうございました。

今号は紙面の都合上「無料低額診療」はお休みさせていただきます。